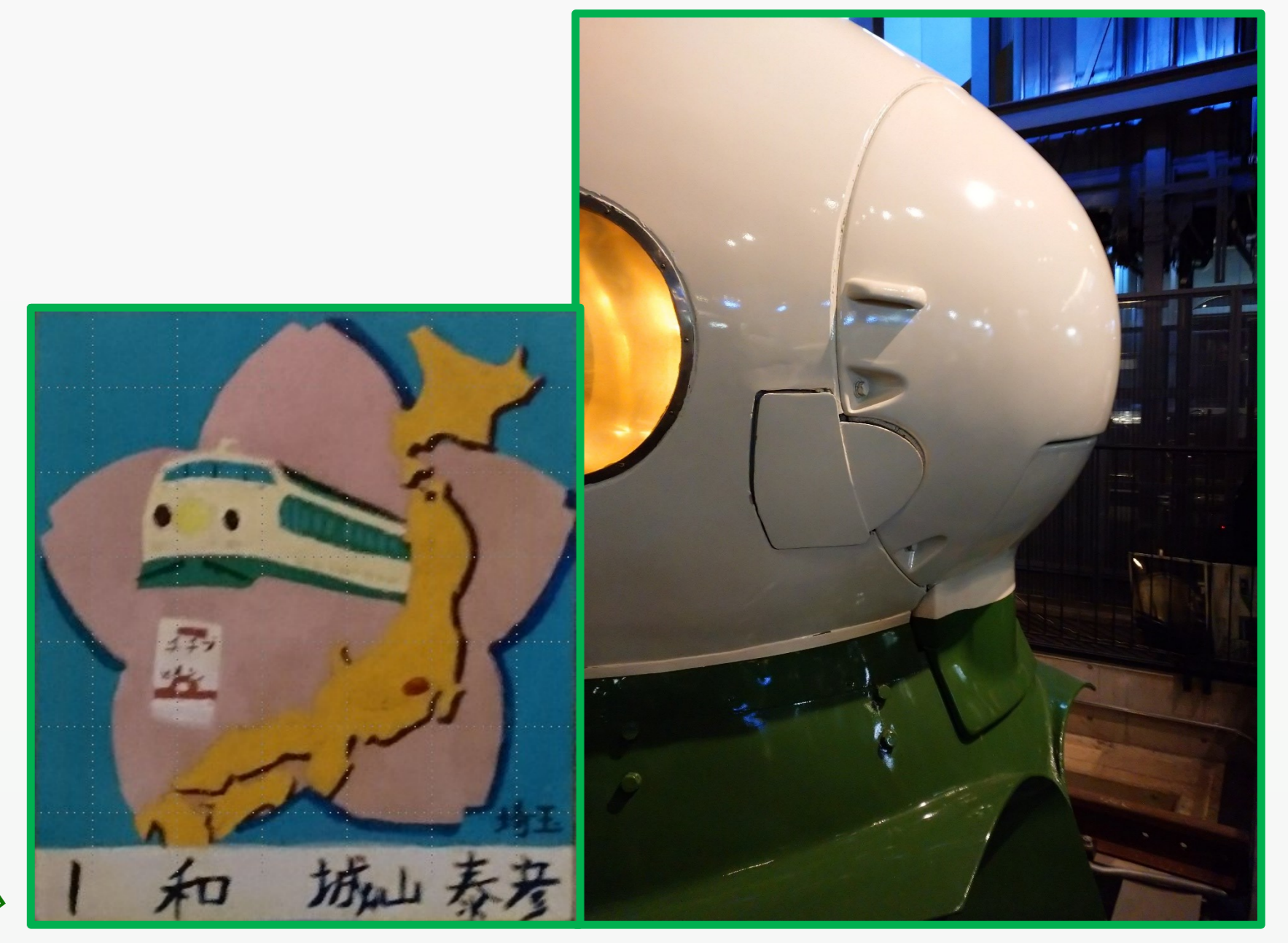


ジャーナル評価指標の経年変化 — 学問分野におけるJournal Impact Factorの分析をととして —

順天堂大学 本郷・お茶の水キャンパス 学術メディアセンター
城山 泰彦 (KIYAMA, Yasuhiko)

東北新幹線開業40周年
1982年6月23日
大宮駅～盛岡駅間
小学校の卒業制作(1982年3月) ⇒



◆ はじめに

ジャーナル評価指標“Journal Impact Factor (JIF)”の算出方法が、2021年6月公開の2020年版から変更された。
・収録範囲がWeb of Science Core Collection全体のジャーナル引用索引に拡大され、Arts & Humanities Citation Index (AHCI)とEmerging Sources Citation Index (ESCI)を含めた
・早期アクセス論文を掲載対象に加えた
⇒ 掲載対象が広がった

◆ 目的

上記の影響のためか、JIF2020を初めて確認した際に、例年のJIFと比べて数値がとて大きくなっている印象を受けた。
JIFはどの程度変化しているか、そして学問分野による傾向はみられるか、分析した。

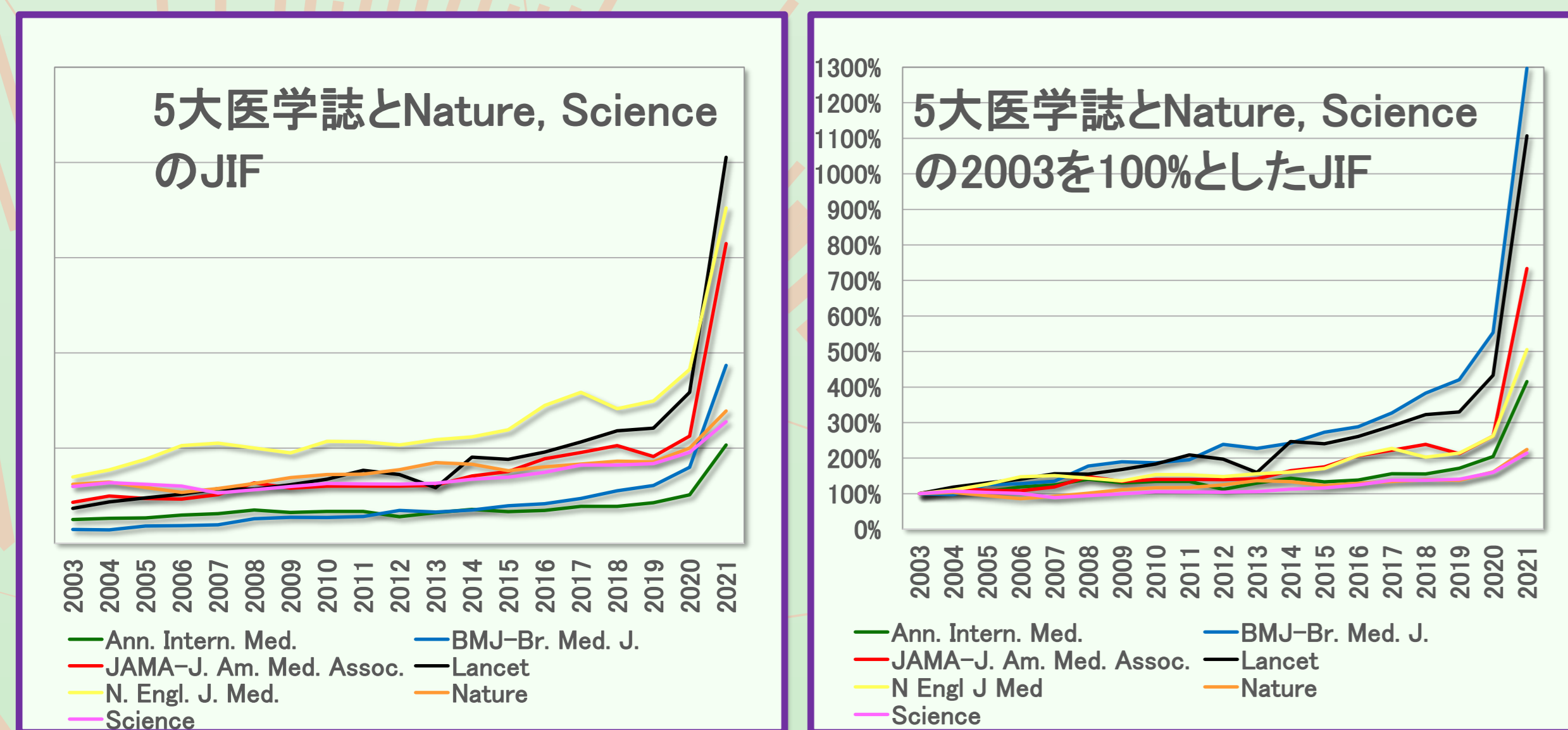
◆ 調査方法

Science Citation Index (SCI)掲載分野を対象に、JIF2003からJIF2021の数値が揃う、170分野を調査対象とした。

分野に掲載される雑誌のJIF中央値を対象に、JIF2003からJIF2021までの傾向を分析した。同様に170分野を、独自に11の学問分野に集約したうえで、学問分野における傾向を確認した。

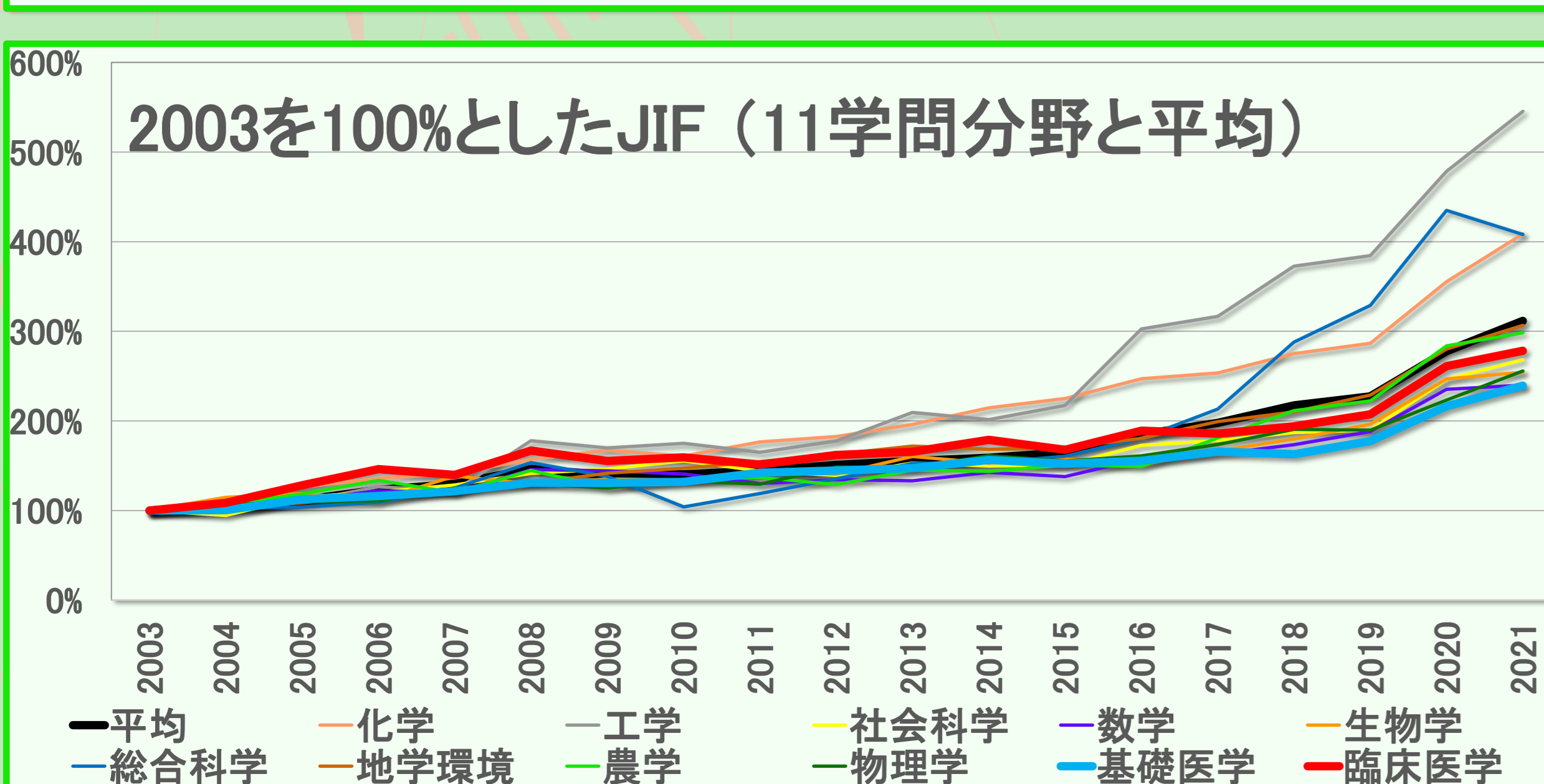
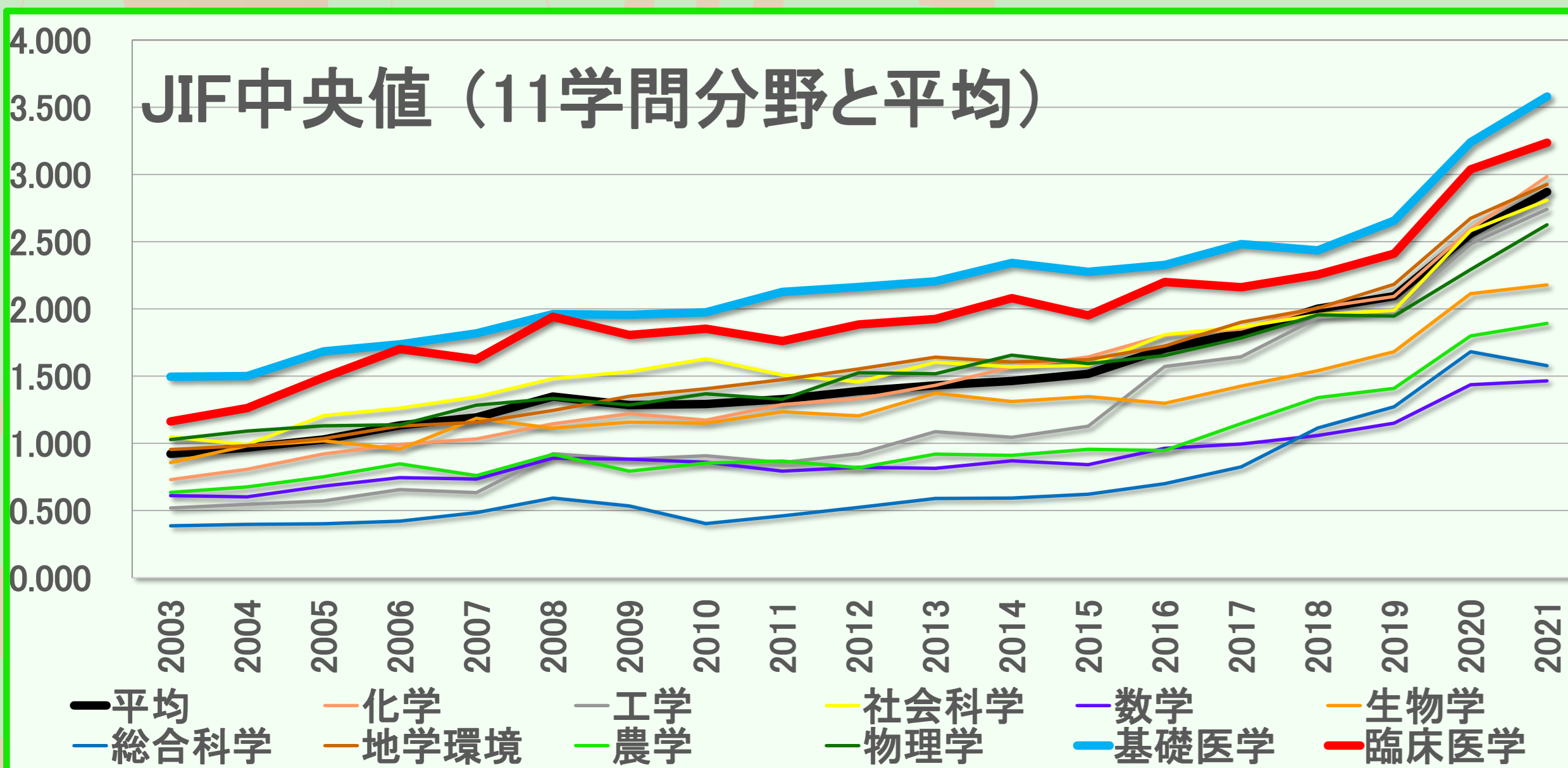
◆ 全体の傾向

“5大医学誌”、“Nature”、“Science”のJIFを確認した。
JIF2020からJIF2021の増加が著しい。



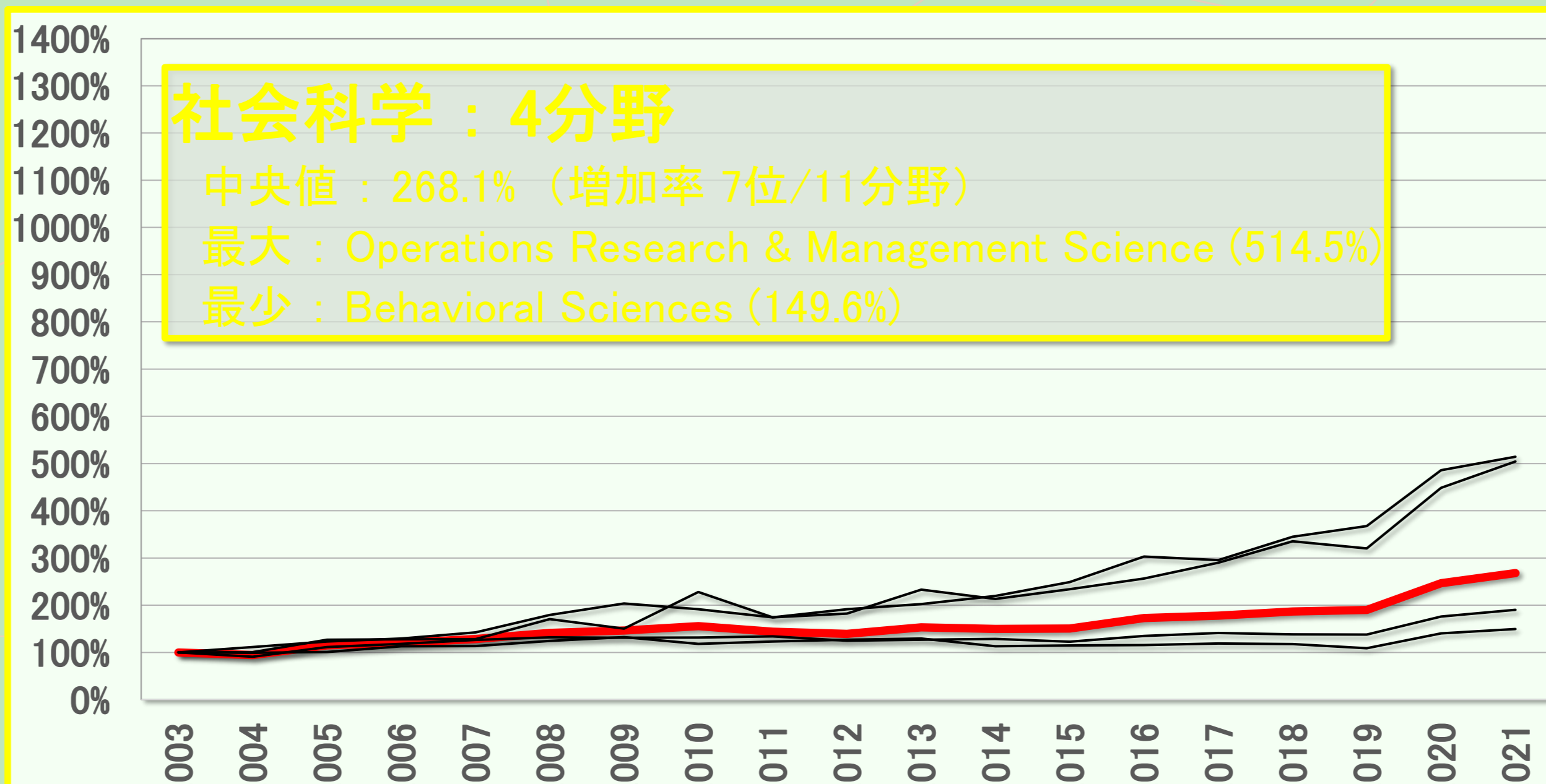
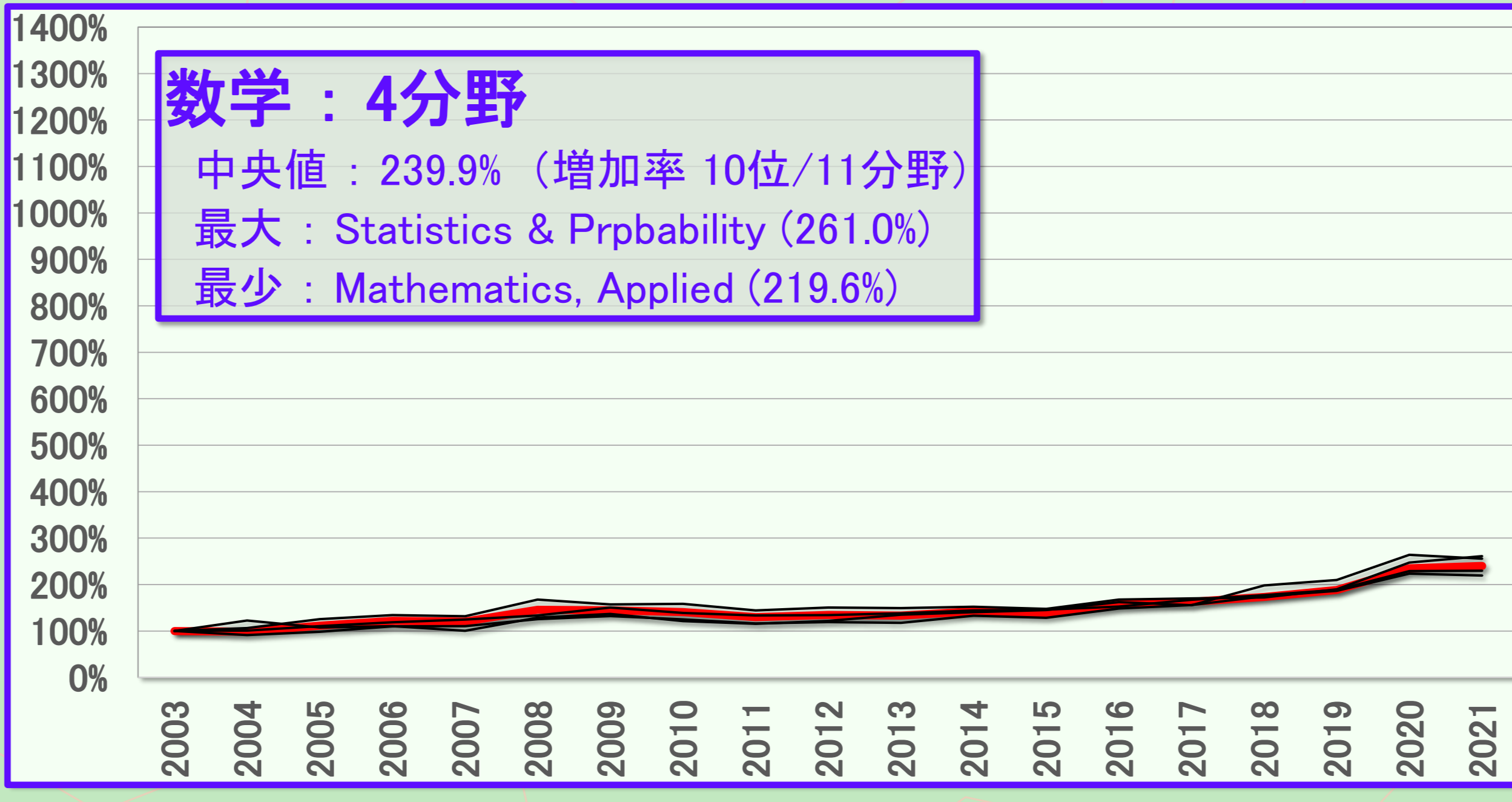
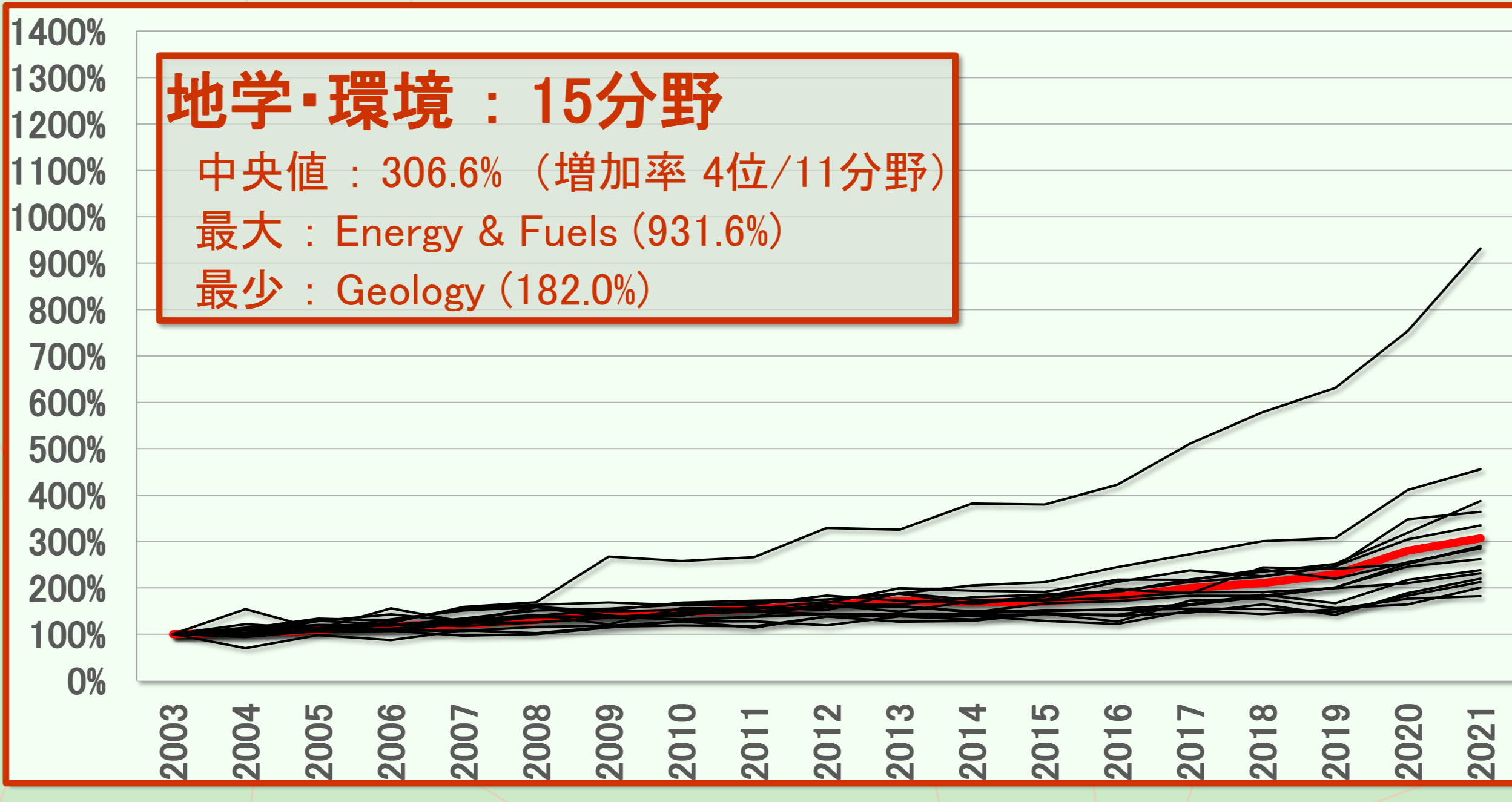
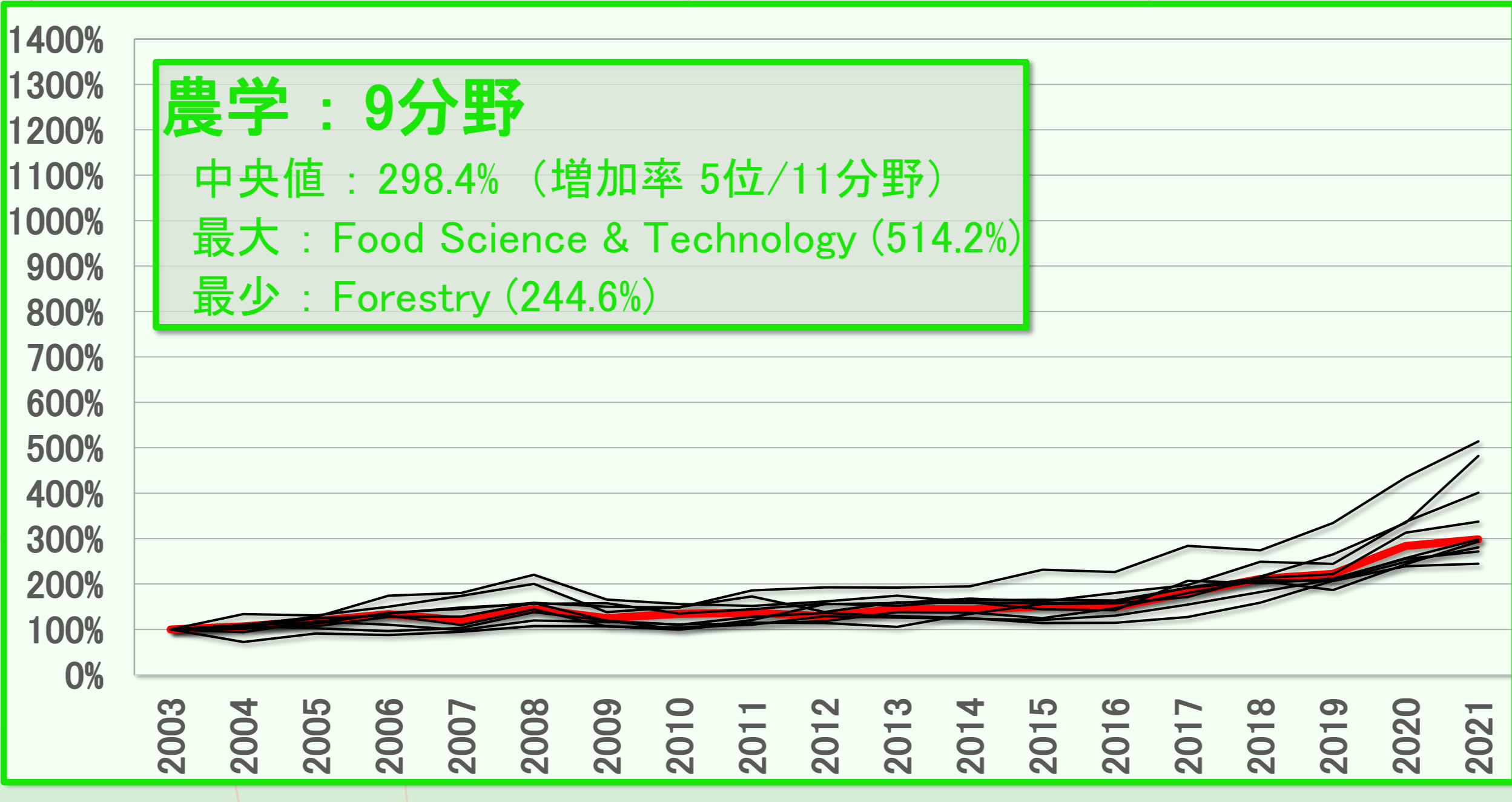
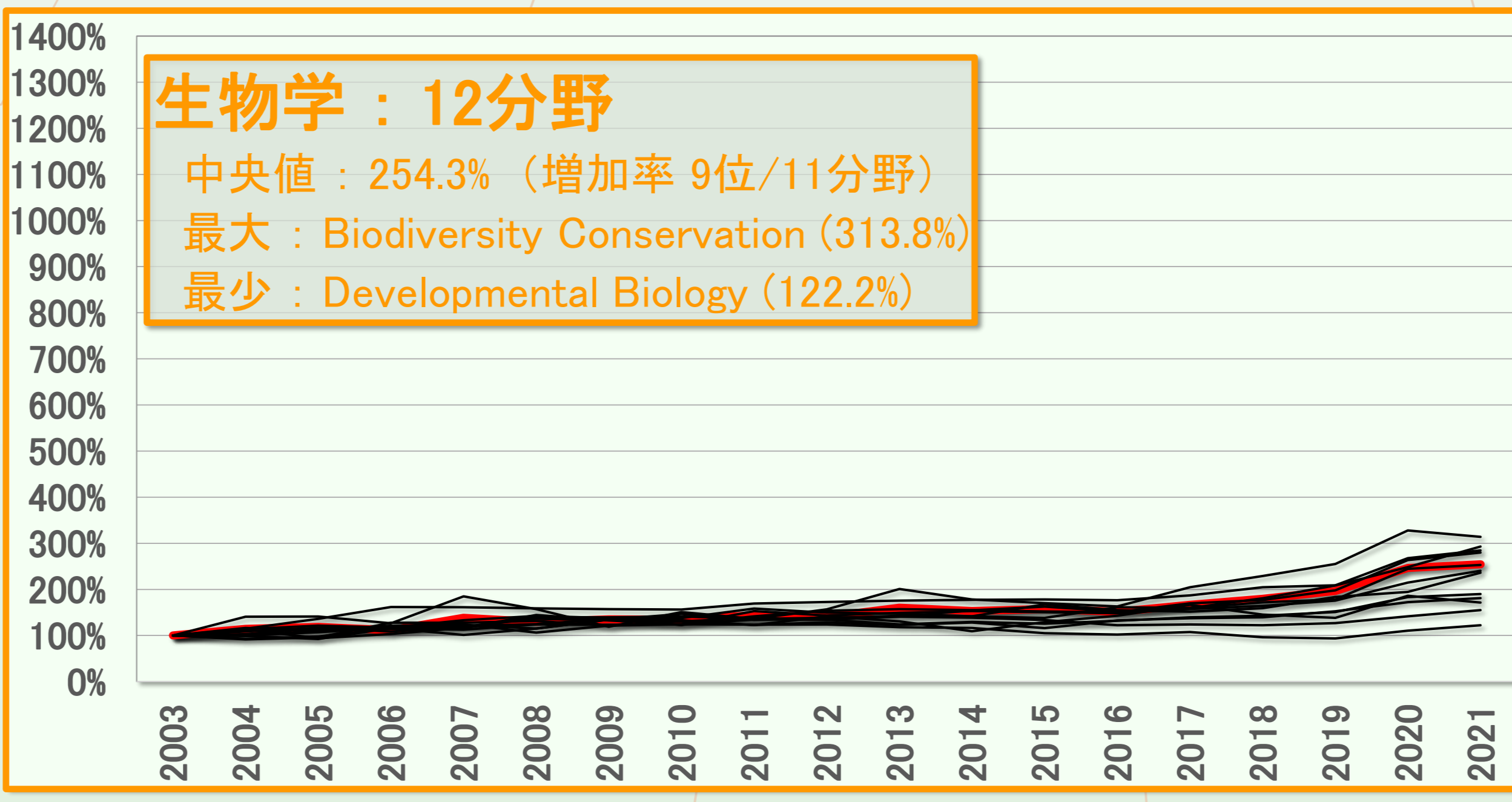
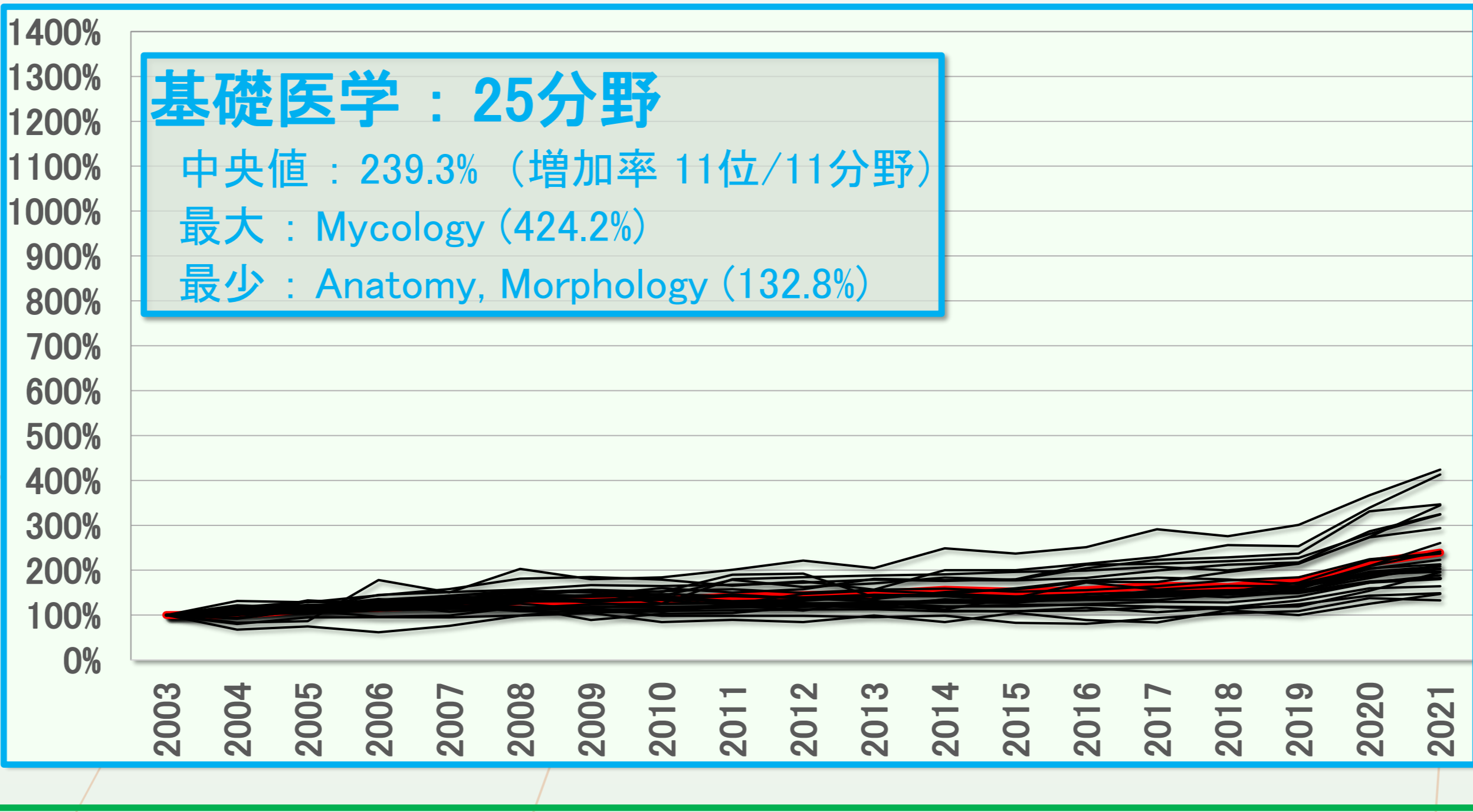
次に170分野のJIF中央値、JIF2003からJIF2021までの推移と、JIF2003の値を100%とした経年変化を確認した。18年間で、311.6%に増大していた。そして疑問のとおり、JIF2019以降に大きな増加傾向を確認できた。

学問分野では「工学 528.3%」が最大で、「化学 408.8%」、「総合科学 408.0%」と続いた。「基礎医学 239.3%」と「臨床医学 278.2%」はJIF2003が高めであり、増加率は低めに留まった。



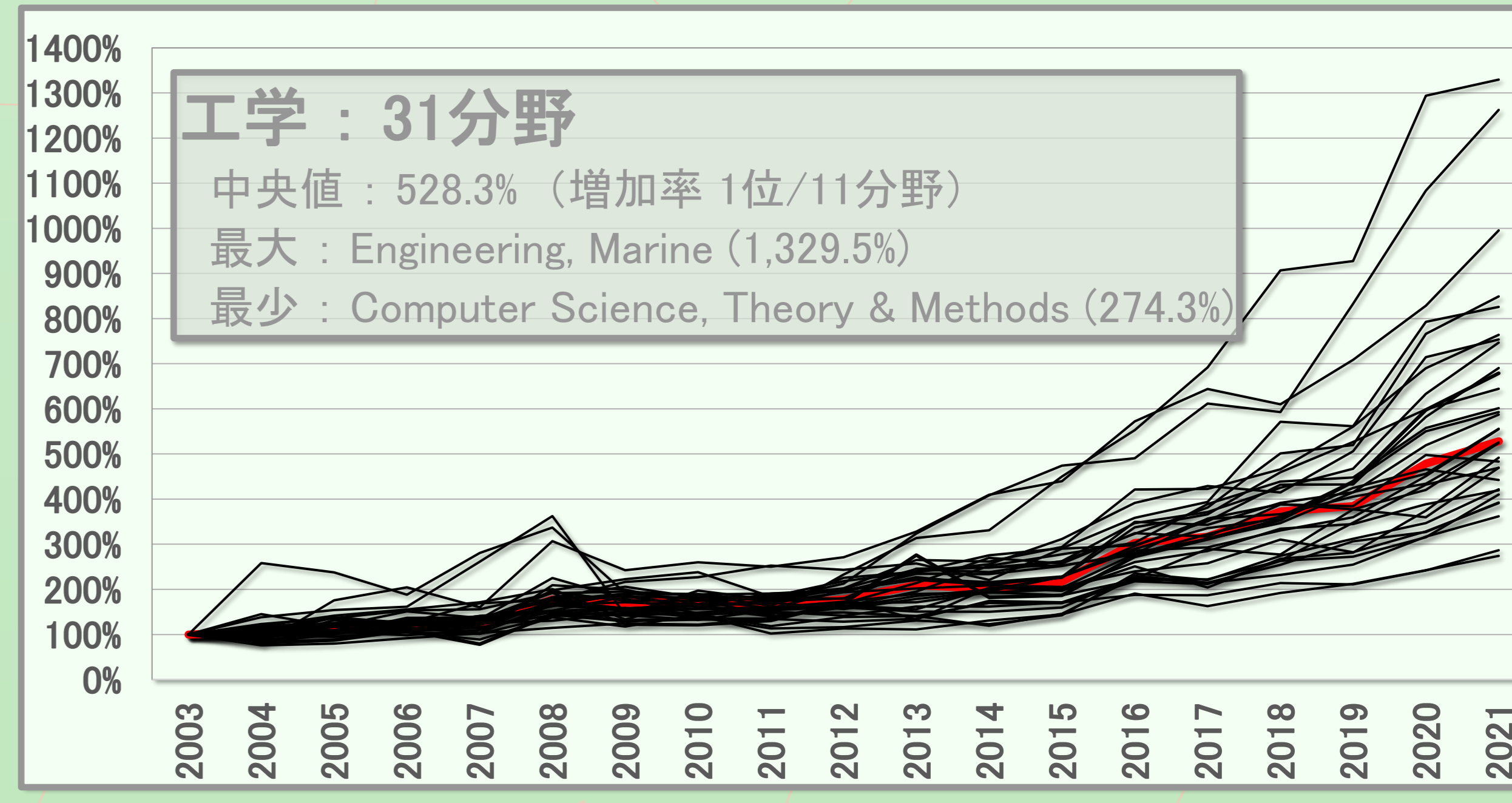
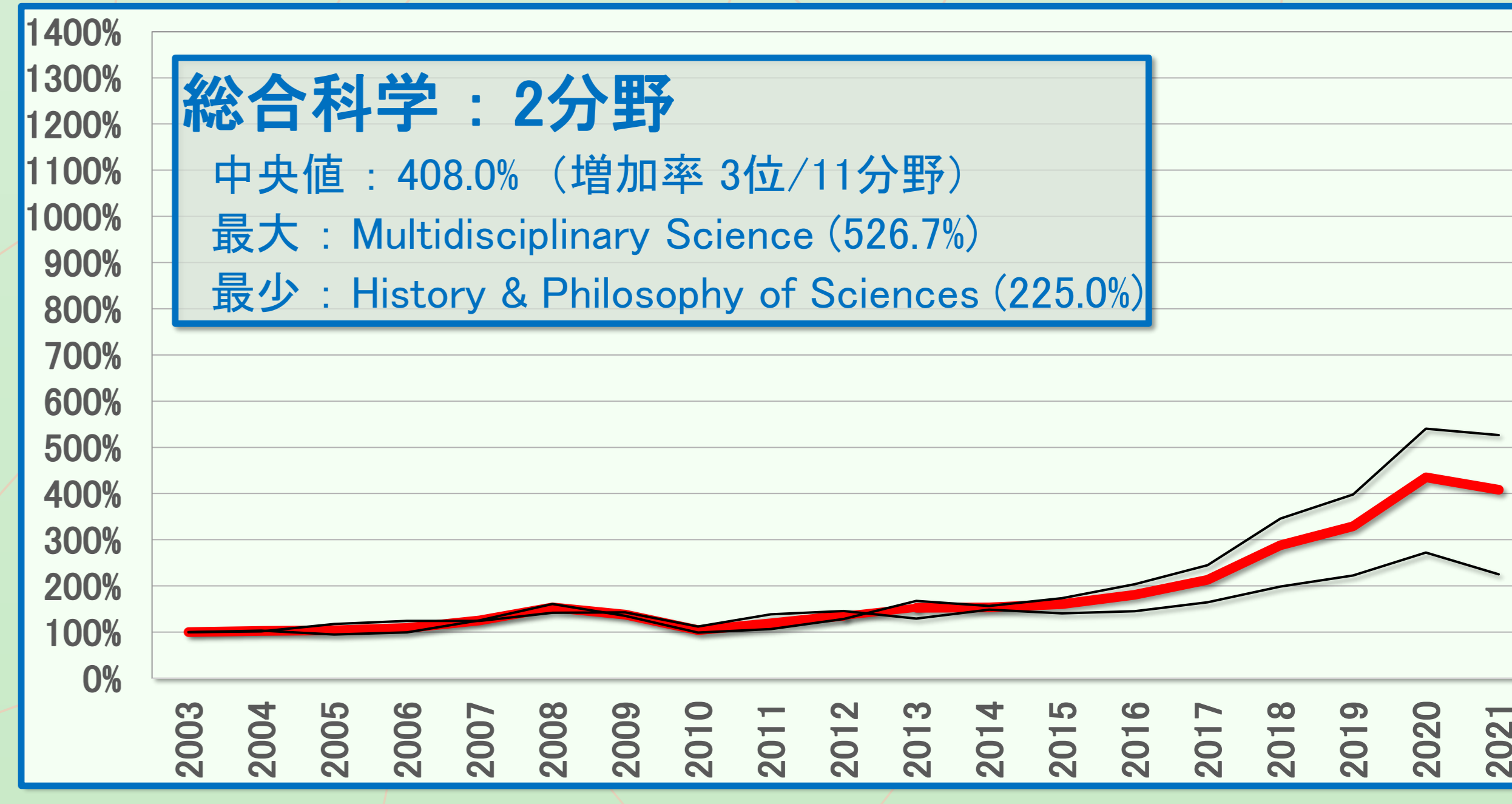
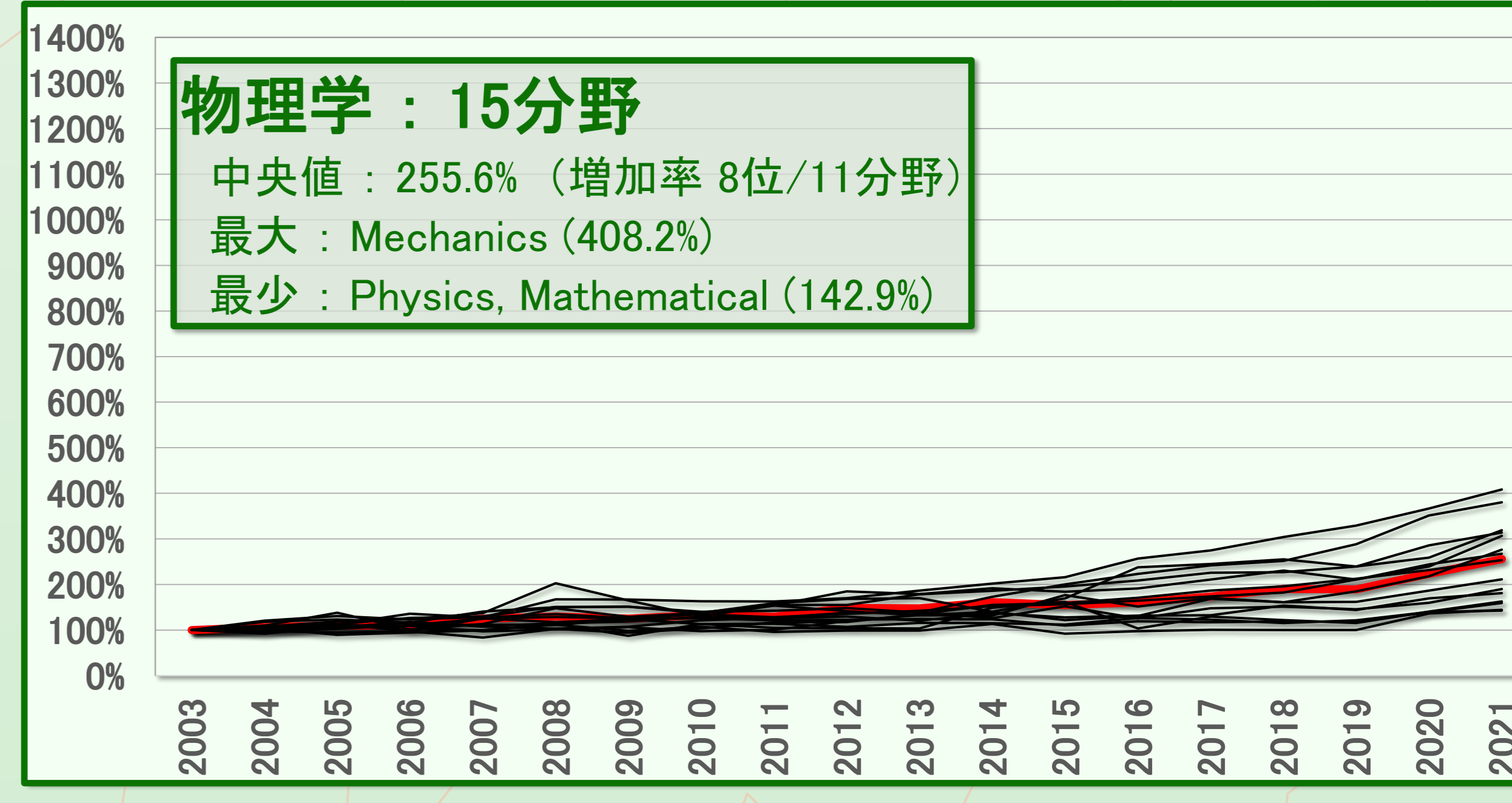
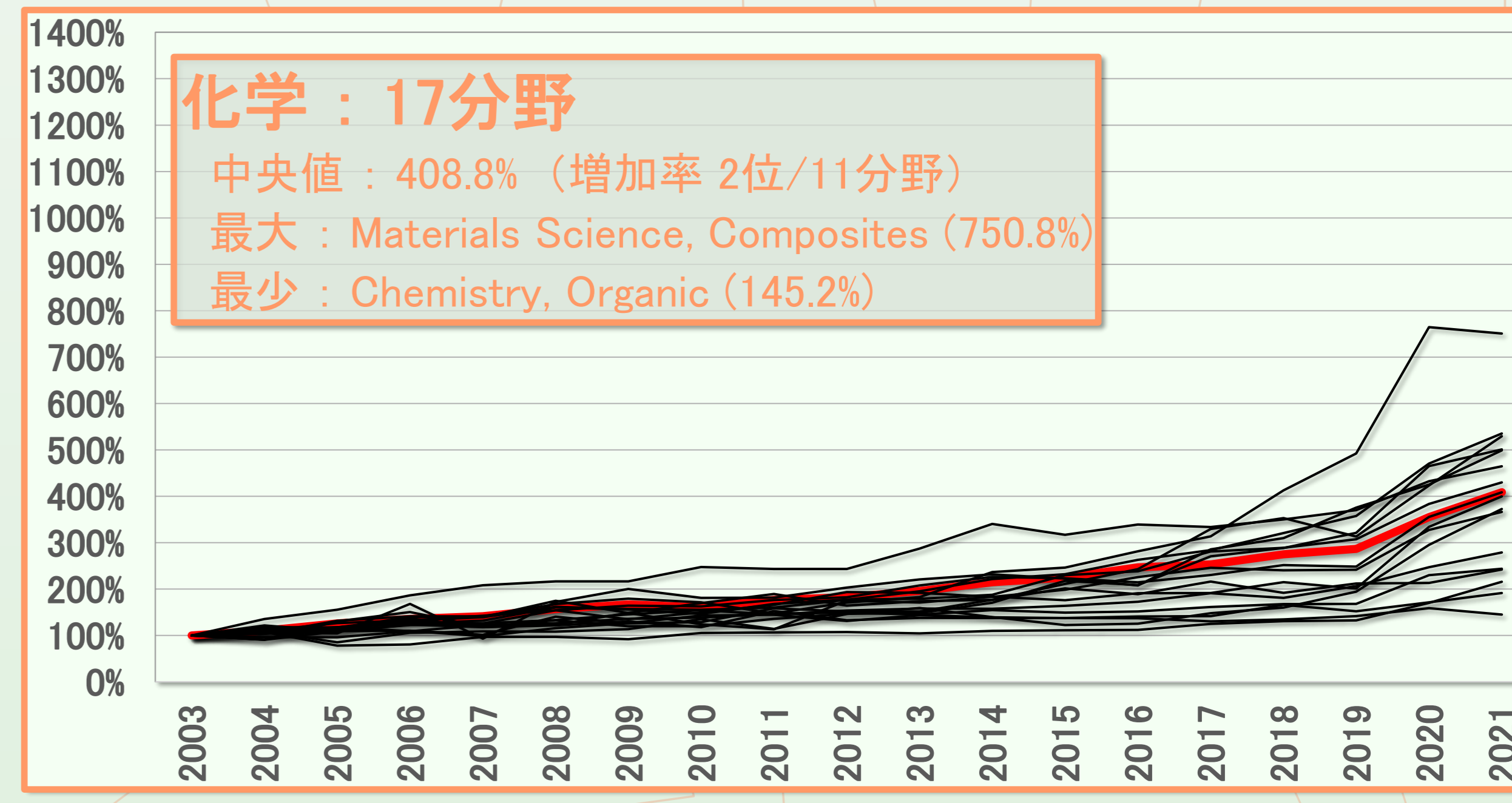
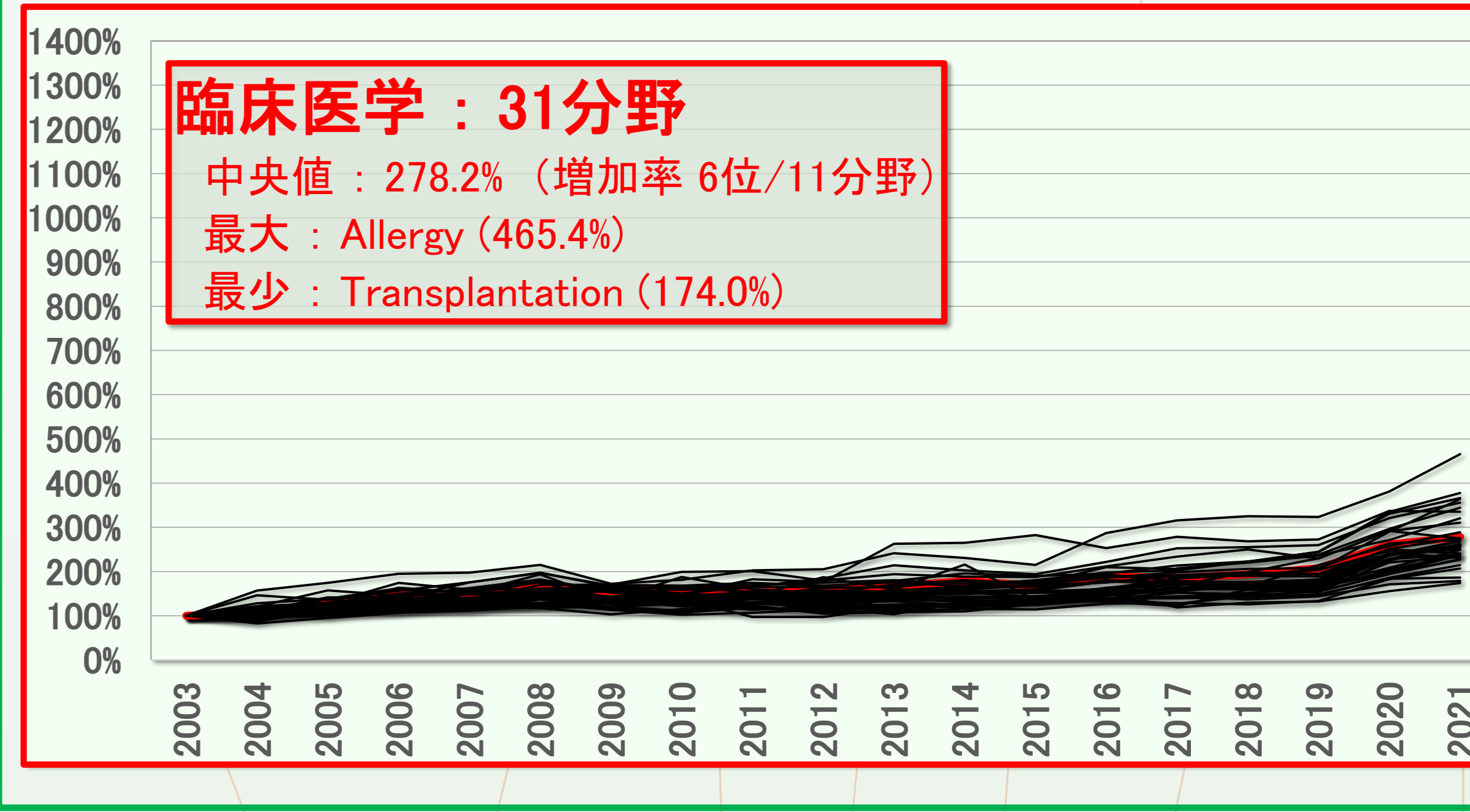
◆ 基礎医学

増加率が高い順に「Mycology 424.2%」、「Medical Informatics 412.9%」、「Sports Sciences 346.8%」、「Engineering, Biomedical 344.7%」、「Nutrition & Dietetics 324.6%」と続き、最少は「Anatomy, Morphology 132.8%」。



◆ 臨床医学

増加率が高い順に「Allergy 465.4%」、「Emergency Medicine 377.7%」、「Nursing 366.2%」、「Medicine, General & Internal 364.0%」、「Orthopedics 356.0%」と続き、最少は「Transplantation 174.0%」。



◆ 結果とまとめ

JIF2003からJIF2021の変化を確認して、学問分野における増加率の差異を確認した。170の分野やジャーナル個々の差はより顕著であり、5大医学誌などのコアジャーナルでは、JIF2021は従来とは大きく異なる数値となった。

算出方法の変更により、JIF数値が大きく変化したことを確認した。今後も同様の、JIF数値の高騰が続くと思われる。